

2017年度報告書

ツナガルカンケイ



横浜プログラム紹介

■ NPO インターンシップ横浜の概要

目 的	NPO や地域課題に関心をもつ学生を発掘し、NPO の活動経験を通して、市民活動を支える人材を育成する
実施主体	特定非営利活動法人アクションポート横浜
運営組織	アクションポート横浜が事務局を担い、横浜市内および近隣地域に所在する 9 大学(協力大学)が運営に協力。
対 象	大学生 (学年は問わない)
受入団体	横浜市内および近隣地域を活動拠点とする NPO や市民活動団体、社会的企業。事務所を有し、常勤職員が 1 人以上いることを条件とする。
実習期間	短期：10 日間、長期：6 か月程度
実 績	2009 年度からこれまでに約 400 名が修了 (長期は 12 年より、28 名修了) 2017 年度は学生 65 名 (うち 11 名が長期) が参加。

1



6 月 お見合い会

参加学生と、受入れ団体が直接話すことができる機会です。全団体の紹介を聞いた後に、興味をもった団体のブースで個別にお話をすることができます。

2



7 月 研修会

活動するにあたって、インターンシップに必要な基礎知識を学ぶ研修会を実施。「NPO ってどんな組織?」「インターンシップをする上でのマナーって?」といった疑問を解決します。参加学生同士の交流も深まる場です。

3



7 月 志望先の調整面接

志望団体が決まったら、面接にてマッチング! 活動期間や内容について具体的に打ち合わせをします。

活動の流れ

4



長期：8-2 月 活動体験 短期：8-9 月

各団体に分かれ、活動を始めます。活動中には、他の団体へ行った学生同士の交流会も開催。交流会では、それぞれの活動で得た発見や、悩みを共有します。

5



短期：10 月 報告会 長期：3 月 (修了式)

活動してきたことを振り返り、活動内容を発表します。団体担当者や大学の先生方も集まり、学生がインターンシップで得た経験を全員で共有します。最後に修了証を受け取り、プログラムは終了です。

プログラム内容については WEB もご覧ください。

<http://intern.yokohama/>



■受入団体について



片倉うさぎ山公園遊び場
管理運営委員会
プレイパーク（屋外の子どもの
遊び場作り）



鯛ヶ崎公園プレイパーク
管理運営委員会
プレイパーク（屋外の子どもの
遊び場作り）



NPO 法人教育支援協会
南関東
子どもの体験学習支援



障害者自立生活センター
IL・NEXT
障害者自立支援



NPO 法人みどり福祉ホーム
障害福祉、子ども支援



NPO 法人地域生活セン
ター・NPO 法人新
障害者福祉



NPO 法人日本の竹ファンク
ラブ
環境保全（竹林）



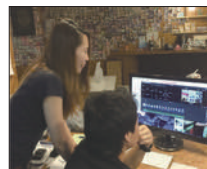
公益財団法人日本野鳥の会
「横浜自然観察の森」
環境保全（教育・調査・管理）



NPO 法人アクト川崎
環境学習、地球温暖化防止、
市民活動支援



NPO 法人ぐらす・かわさき
地域活動支援センター
「メサ・グランデ」
コミュニティカフェ・市民活動
支援



コトラボ合同会社「ヨコハ
マホステルヴィレッジ」
コミュニティ再生、起業



NPO 法人さくらザウルス
子育て支援



NPO 法人グリーンママ
子育て支援



NPO 法人ビーのビーの
子育て支援



NPO 法人かながわ外国人
すまいサポートセンター
外国人支援（住まい探し・生
活相談など）業



NPO 法人WE 21 ジャパン
リサイクル、国際協力



認定 NPO 法人地球市民
ACT かながわ
国際協力



NPO 法人横浜 NGO ネット
ワーク
国際協力



NPO 法人 ST スポット横浜
芸術文化



NPO 法人横浜コミュニ
ティデザイン・ラボ
情報、中間支援



横浜中華街パーキング
協同組合
まちづくり



NPO 法人アークシップ
まちづくり、アート



NPO 法人アクションポート
横浜
市民活動支援

受入団体の声

●インターン生を受け入れての感想

何よりも、インターン期間中に学生と関わってくださったグループホーム入居者の方が、学生に自分の生活を自分で説明し、共に行動した時間を楽しく、嬉しく感じてくれていることが良かったです。そして、参加した学生が障がい者の地域生活に密着したからこそ見えた気づきや経験を得て、インターン後も継続して入居者の方達とのお付き合いを続けてくれていることをとても嬉しく感じています。

●このインターンプログラムの魅力

インターン期間というある程度のまとまった時間と、何か学びを得たいという想いを持った学生が参加してくれることがこのインターンの魅力だと感じています。インターンのプログラムを通し障がい者の暮らしに時間をかけて密着してもらうことで、生活の場や活動の場、地域のお店や近所に住む人々などの様々な出会いと繋がりを実感することができます。学生にとっては、障がい者支援、そして地域福祉の実践を学べる機会になると思います。

●インターンシップが団体の課題解決に役立っているか

私たちは障がいのある方たちの「まちの中で自分らしく暮らし続けたい」という想いを実現するために活動しています。学生が関わってくることが、入居者の方にとっての人との繋がりや暮らしの質を高める社会の風になると考えています。そのため、インターンの期間を超えて、入居者の方とのお付き合いや他の学生にも繋げてくれることを期待します。

●これからインターンをする学生への応援メッセージを

インターンに参加したいということは、何か新しいことに挑戦し、成長したいという想いがあるということだと思います。成長というのは、人との出会いの中で育まれていきます。ぜひ、自分が今まであまり関わってこなかった人達と出会ってみて、新しい自分の気持ちを見つけてみてください。それが大きな成長に繋がる一歩になるはずです！



NPO 法人新 島崎由宇さん

■連携大学について

このプログラムは横浜近隣大学（桜美林大学、神奈川大学、関東学院大学、専修大学、フェリス学院大学、明治学院大学、横浜国立大学、横浜国立大学、横浜国立大学）と一緒に運営しています。

上記大学では授業または実習の一環で参加しています。

また、プログラムの広報にあたっては、約 30 大学に協力をいただいています。

大学担当者の声



横浜市立大学 後藤 寛さん

1年のサイクルを終えてみて、なによりもほとんどの学生が楽しそうに経験を振り返って報告してくれた笑顔が印象に残りました。大学でもさまざまな授業や実習で社会と関わる機会がありますが、各自が単身乗り込んでいくインターンシップは当然経験の質がまるで違うので終えた学生の成長を実感します。その上で一つの仕事を通じて経験と達成感を得て戻ってきた学生たちに、今度は自分の実体験を踏まえてその仕事が社会の中での位置づけを理解させるのが私ども大学側の次のミッションと心得ております。

NPO の皆様の活躍されている事業内容にはさまざまです。学生にまずは世の中に自分の知らない世界や課題が広がっていることを知ってほしいと思っています。そのためにはお話し感覚の短期もじっくり本気で関わる事ができる長期も組み合わせでさまざまな視点を経験してほしいと思っています。勝手な希望を申せばもっとお手軽な1日体験をいくつか回るようなメニューもあるといいかもしれませんね。



明治学院大学 米澤 旦さん

大きく分けて、「一般の企業のインターンシップにくらべても活動の内容のハードルが高くないため、学生にとって参加しやすいプログラムになっている」「色んな大学の学生さんが参加されるので、一緒に活動することで仲良くなる機会がある」「色んなキャリアを歩んでいる大人と接点ができる」という3点が挙げられると思います。

また、参加した学生の変化も様々です。講座や座学で知識として学んでいた知識と実体験が結びつくことによって、学生の考え方の幅も広がっています。

実際に、インターンをきっかけに今迄勉強していた社会問題について深く入り込んで勉強していく学生もいます。他の団体でどういう活動をしていて、どのような文化があるのかを体験できる機会を増やしたいです。例えば、企業インターンシップとNPOインターンシップを同じ人が両方体験してみて、比較したり共通点を見つけることができれば、学生にとってもためになる経験になると思います。さらに、同じ分野のNPOをまとめて体験できるプログラムを作ってみたいですね。それにより、ひとつの社会課題をより複眼的思考で物事を考えることができるようになると思います。

専修大学キャリアデザインセンター 堀野 賢一郎さん

進路選択に悩む学生にとって、仕事の選択肢を広げることと、その中から絞り込むことは簡単なことではありません。学生時代に NPO という選択肢を知ることは、たとえ最終的に企業や公務員を選択することになったとしても、「自分にとって働くこととは何か」を考える貴重な機会になるのではないかと、そういった期待を持って今年度から参加しました。

参加学生の報告書には「発想の転換」「出会いの大切さ」など、仕事の理解を超えた多くの気づきが書かれており、NPO のみなさまと時間を共にすることが、社会が抱える様々な問題を「自分のこと」として捉える機会となったことが伝わってきました。今後の大学生活にも大きな影響を及ぼすことと思います。

今後も多くの NPO と大学が、共にキャリア教育に取り組むことを通じて、よりよい人材を輩出していきたいと考えております。

このプログラムの特徴は何ていっても大学と NPO が連携してプログラムを作り、各現場で学生が思いっきり活動ができることです。

報告会では「人とのつながりを感じながら活動できるのはとても嬉しい」

「楽しい活動をするだけでなく、活動を楽しめるように考え方を工夫することが大事だと気づいた」「横浜の街が大好きな人たちに会い、街に誇りを持てるようになった」という報告がありましたが、リクルート型のインターンシップとは異なり、街の人に出会い、街の人たちの関係性の中で「人間力」を高めることができるのがこのインターンシップの特徴だと思います。

ただ、やはり人の成長に寄り添うプログラムなので、成果が見えるまで時間のかかるものも多く、なかなか短期的に目に見える成果が限られてしまうのは大きな悩みです。

「数年して元インターン生が戻ってきた」「社会人になって横浜で活動を始めた」長く続けていけばそういう成果も見えてくるので、大人の皆さんには根気強く、若者に寄り添って、支えてもらえたらと思います。今年もたくさんのドラマがありました。次年度もどんな出会いがあるのか楽しみです！

コーディネーター より



NPO 法人アクションポート横浜
高城芳之

■見えてきたプログラムの成果

①地域・NPO の変化

NPO インターンシップの受け入れを行った団体(18 団体)へのアンケート調査の結果、団体の活動を知ってもらう等、受け入れ目的に合致した効果が得られていることが確認されています。



神奈川大学 経営学部 山岡義卓さん

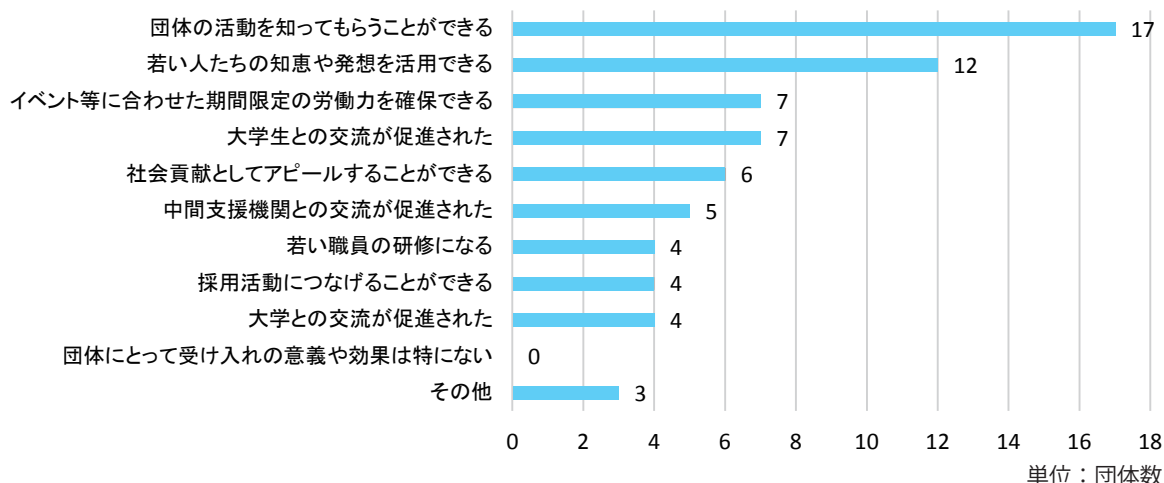


図1 NPO インターンシップにより学生を受け入れる意義（複数回答）¹⁾

具体的には、「団体の活動を知ってもらうこと」が最も多く、このほか、若い人たちの知恵や発想の活用、大学生との交流促進等が挙げられています。

そのほか、ヒアリング調査²⁾の結果では、「若い世代を受け入れるということは、将来親になる若い世代を育てていくことと考えている。」（子育て支援）、「世界、地球規模で起きている課題を自分ごととして捉えて行動できる人を増やすことがミッションであり、インターンシップを通じて、そのような人材を育てていきたい。」（国際協力）等、多くのNPOは組織内の人材育成よりむしろ、社会全体における人材育成を意識した受け入れに意義を感じていることが窺えます。

②学生の変化

NPO インターンシップに参加した学生（43 人）に対するアンケート調査の結果³⁾、ほとんどの学生が今後も受け入れNPOとの関わりを継続したいと回答していることから、これまでNPOの活動に参加したことがなかった学生に対してはNPOの世界への入口の役割を果たしており、また、既にNPO等の活動に参加している学生に対してもその関係をさらに前向きな方向に促す役割を果たしています（図2）。

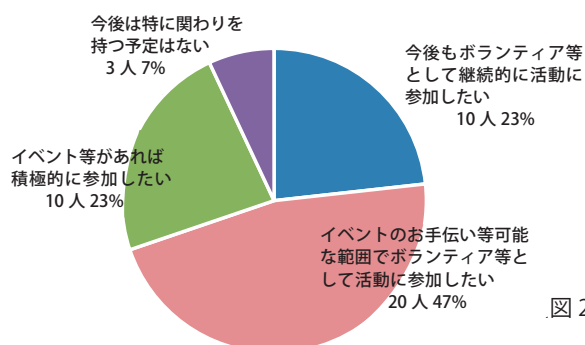


図2 今後、受け入れNPOとどのように関わりたいか（単回答）

また、実施後の感想（複数回答）では、受け入れ団体をはじめとしたNPOへの関心の高まりや、地域活性化やまちづくり、横浜市や周辺地域への関心の高まり等、NPO インターンシップならではの変化が見られています。

1) 2017 年度にアクションポート横浜が実施した NPO インターンシップの受け入れを実施した全 18 団体に対するアンケート調査の結果。

2) 2017 年度にアクションポート横浜が実施した NPO インターンシップの受け入れを実施した全 18 団体に対するヒアリング調査の結果。

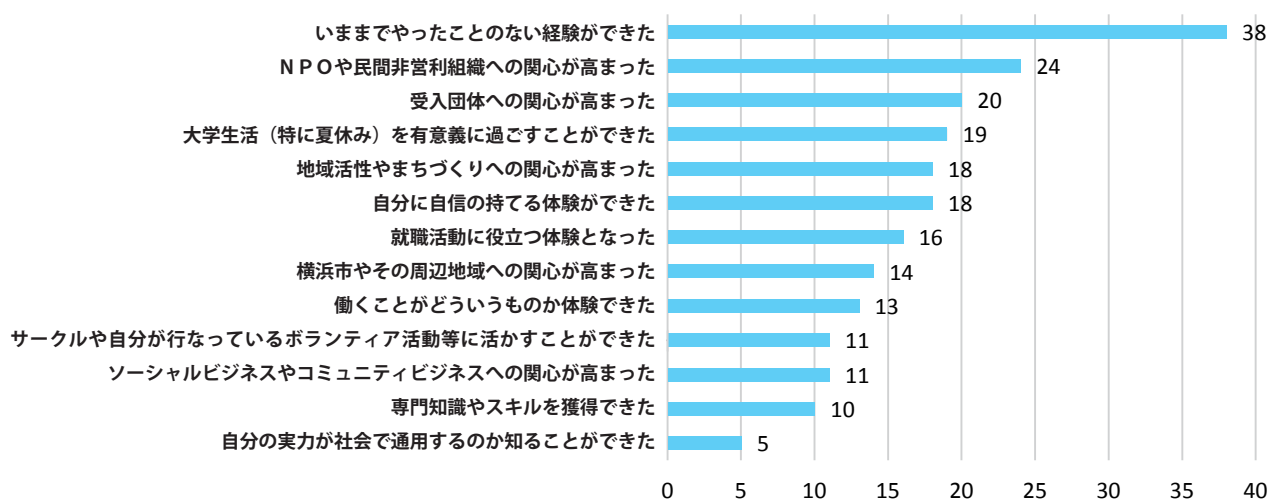


図3 NPO インターンシップに参加した学生の実施後の感想（複数回答）
単位＝人

以上より、NPO インターンシップに参加することにより、学生はNPOや地域社会への関心が高められるとともに、主に受け入れ団体との関わりを通してNPOの世界に関わるきっかけを得たり、あるいは、より積極的にNPOの活動に関わる気持ちが醸成されていると言えます。

③企業インターンシップ、ボランティアとの比較から

現在大学等で実施されている企業インターンシップは就業体験としての意味合いが強く、特に昨今は就職活動開始時期の後ろ倒し化に伴い、あたかもインターンシップは就職活動の一環であるかのように扱われているようにも感じます。しかし、NPO インターンシップでは、実施後に「働くことがどういうものか体験できた」と感じた学生は3割程度に止まっており、また、将来NPO等への就職を希望している学生は1割程度に過ぎません。さらに、受け入れ団体側においても多くはボランティアとインターンシップの違いはあいまいに捉えられています。こうしたことから、NPO インターンシップは就業体験としての意味合いは確かにあるものの、企業インターンシップに比べればその要素ははるかに希薄だと考えられます。他方、活動内容はボランティアと大差ない場合が多く、また、NPOや非営利活動への関心があり、社会貢献的な目的をもって参加している学生も少なくありません。以上より、NPO インターンシップは就業体験的な要素と社会貢献的な要素の両方を併せ持つ、企業インターンシップともボランティア活動とも異なる新しいタイプの体験型学習と位置付けることができます。

このような特性を考慮すれば、本プログラムはキャリア形成と社会貢献の両方の観点からの人材育成に資することができ、さらには、長期的にはNPOの活動の発展にも寄与することが期待できる大きな可能性を有するプログラムだと考えられます。

3) 2017年度にアクションポート横浜が実施したNPO インターンシップに参加した学生へのアンケート調査の結果。同年の参加学生は48人であり、アンケートは43人から回収した（回収率89.6%）。なお、同様の調査は2014年より現在まで継続して実施しており、毎年ほぼ同様の傾向の結果が得られている。

■学生の体験談

インターン先：NPO 法人ぐらす・かわさき（短期）
明治学院大学社会学部社会福祉学科2年（実習当時）
木村円香さん



ぐらす・かわさきさんのコミュニティカフェ「メサグランデ」は、障害のある人達とカフェの運営を通じて、障害のある人達の居場所づくりを行っています。私は、料理作りの手伝いや、障害のある人達と一緒に様々なゲームをして遊んだりしました。これらの活動を通して、障害のある人に対する印象が変わりました。インターンに参加をする前は、障害がある人と聞くと、どのように接したら良いのだろうかと、身構えてしまいました。しかし、実際に関わってみると、皆とてもフレンドリーで、特に何も意識しなくともすぐに仲良くなる事が出来ました。また、私自身の行動を見直すきっかけにもなりました。メサグランデで働いている人達は1人1人が、自分がやるべきことを理解しており、自立して仕事をしているのを間近で見て、自分自身も変わろうと思うことができました。このインターンの活動の中で一番苦労した点は、料理です。普段全く料理をしない私は、教えていただかないと出来ないことが多く苦しんだのですが、皆と協力して乗り越えることが出来ました。インターンの活動を通して料理にも興味が湧き、インターン活動の

中で作った料理を、家で作ったりもしました。インターンの活動の中で特に楽しかったことは、カフェの営業後に行なう障害のある人達と行なったゲームです。様々なゲームを行なった中でも特に盛り上がったのは人生ゲームです。難しいルールなどは自分達流にアレンジをして楽しくゲームをしました。このゲームを通して、障害のある人達と仲良くなることができました。このフィールドワークを通じて、自ら積極的に動きそれらを発信していくことの大切さを学びました。1人1人の力は小さくても、その力が集まれば大きな力になる、ということを実感しました。座学ではなかなか学ぶことの出来ないことを、たくさん学ぶことが出来ました。フィールドワークでの経験を今後に活かしていきたいです。

1日の流れ

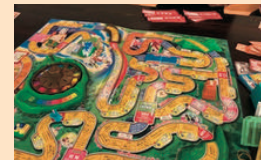
9:30 お客さんを気持ちよく迎えるためにメサ・グランデの中を掃除します。



10:30 障害のある人たちと一緒に従業員用のまかない作りをします。



12:30 皆でつくったご飯を食べる休憩時間です。色々な話をしたりできる楽しい時間です。



14:00 障害のある人たちとボードゲームやカードゲームをします。とても盛り上がります。



15:30 一日使ったメサグランデを掃除します。結構体力を使う仕事です。

<卒業生からのコメント>



鈴木沙周さん

2013 年度
NPO法人
アクションポート横浜
(短期)
フェリス学院大学
2016 年度卒業

人に寄り添える仕事に就きたいと考えるきっかけになった

Q. インターンを始めたきっかけは何ですか？

大学生になったら興味のあることに積極的に挑戦しようと決めており、大学で行われていた様々な説明会に参加する中で、「NPO インターンシッププログラム」に出会い、参加を決めました。

Q. 現在の仕事内容とインターンの経験が活かしていることはありますか？

現在は就労継続支援 B 型の施設で働いています。高校までは普通の OL になるんだろうなと思っていましたが、インターンを通じて就職先は一般企業だけではないという意識に変わりました。インターンの企画で「人の良いところを見て、得意なことを生かせるように」というマインドでチームを運営した経験は、仕事を選ぶ際に参考になったし、仕事（利用者支援）に役立っています。

Q. NPO インターンシップの価値は何でしょう。

やりたいこと、目的がはっきりしている人には、その世界を見て将来に生かしてもらうのにとっても良いプログラムであるのはもちろん、私のように目的がはっきりしていなくても、受け止めてくれる団体やコーディネーターがいたことは大きかったと思います。一般の企業に就職したとしても、地域のことを知っていること、地元に関わりがあることは強みになりますよね。実際に私もインターンで関わった方から仕事に直結するようなお話をいただけたこともあります。仕事の相談ができる社会人や仲間と出会えたことも、支えになっています。

インターン先：NPO法人教育支援協会南関東(長期)
東洋大学3年(実習当時)
手嶋 美結さん



教師になりたいという思いから、インターン先には教育支援協会南関東を選びました。

私がインターンに参加する上で最も意識したのは、何を得心か考えて挑むことです。この意識のおかげで、論理的な思考力を補いたいという目標を持ってました。

夏頃に、イベント補助として『手を洗うことの重要性を伝える』企画作りを任されました。参加者も開催側も楽しめるようなコーナーを作ろう。という意識で作り、子どもと保護者様、役員の方からとても高い評価をいただきました。

この成功体験で、教師ではなく企業で商品開発をしたいという新しい思いが生まれました。

秋頃には、理科実験教室の補助・実験企画作成と、他のインターン生と共に講座を一から作り上げる企画に参加しました。ここで得られたのは、2つあります。

1つ目に、企画の展開方法です。

『実験』という工程を踏むためか、イベントではなく授業のような展開になっていました。しかし、担当者の「実験は、参加者と関わる手段と考えている」というアドバイスで、企画にはストーリー展開(場面づくり)が重要だと気付きました。これによって、子どもたちとより深く関わる事ができる実験ができました。

2つ目は、大人数で協力して作り上げる企画がいかに難しいかです。

今までの企画では自分の意見とメンバーの意見を調整して作り上げることはしていませんでした。最初は意見が合わず苦労したのですが、これでは企画が進まないと思い何度も企画会議で意見を調整し、双方納得して進めることができました。

目標の論理的な思考力を補うことは、まだ十分達成出来たとは言えません。しかし自分の持つ長所や短所を、改めて見つけることができ、これからの就職活動と社会人として働く時に役立つ経験をたくさん得られました。

<半年間のインターンシップの流れ>



過去のインターン生の体験談はWEBにも掲載しています。是非ご覧ください。



過去のインターン報告書も以下よりご覧いただけます。



■学生座談会



インターンシップで活動した、3人の学生で座談会を行いました。

活動のきっかけや、思い出話、苦労した事など、それぞれの活動の経験を語り合いました！



司会:今日はよろしくお願いします。まずは自己紹介から！

國井:障害者自立生活センター IL・NEXT で短期インターンをしていた明治学院大学2年の國井美歩です。大学ではカフェ研究会を立ち上げ、サークルの運営をしています。

荒木:アークシップで長期インターンをしていた東洋英和女学院大学3年の荒木優里奈です。大学では合気道部に入っています。

佐藤:横浜中華街パーキング協同組合で2年前の2015年にインターンをしていた明治学院大学4年の佐藤秀彰です。今日は卒業生として話に参加させていただきます。

司会:では、インターンを始めたきっかけから聞きたいと思います。

佐藤:勉強している法律が実生活で役に立つのか、現場で見て見たいと思ったのがきっかけですね。

國井:私は授業で障害者の自立とはを学ぶ機会があって、座学ではなく現場で学びたいと思ったのがきっかけです。皆さんとは違い、大学の授業経由でこのインターンには参加しました。

荒木:大学では保育学科にいますが、保育に関することしか学ぶことがなく、就職先も保育士になる人がほとんどで、自分の視野を広げたいと思っていました。その時に、先輩に相談するとこのプログラムを紹介され、自分があえて知らない分野の団体に行ってみようというアークシップを選びました。

司会:ありがとうございます。インターンでは主にどんな活動をされたんでしょうか。

國井:生活センターに来る障害者の方とみなとみらいに映画を見に行ったり、食事に行ったりしました。もともと人と話するのが得意なので、利用者の皆さんともすぐ仲良くなれて楽しかったですね。

荒木:なるほど。私の団体は音楽イベントを実施する団体なので、随分と違うかも。主催している「ホッチポッチフェスティバル」という音楽イベントの広報をすることがメインでした。その上で、イベントの現場を体験したり、学生だけで企画を考えて実際にやってみるなどのこともしました。

司会:テーマごとに活動内容も様々なところがこのプログラムの魅力でもありますよね。活動して大変だったことや気づいたことはありましたか。

國井:障害者のことは授業で学んでいても接するのは初めてで、最初は戸惑ったんですね。でも、実際にしてみると優しく接してくれて印象が随分変わり、コミュニケーションを取るのが面白くなりました。また、実際に車いすの対応をしていくと意外と街中は段差が多かったり、建物の中も斜面が急だったり障害者に優しい道は少ないと気づきました。日常からその視点で生活することも増えて、気づくことも多くなりましたね。

佐藤:最初はインターン先に行くだけでも緊張しますよね。僕もそうでした。でも、現場の方々は思った以上に優しく、慣れてくると参加するのが楽しくなりますよね。

荒木:本当に、そういう大人との出会いは大きいですね。もしこのインターンに行っていなかったら自分よりも上の世代、30〜60代の人と話すことはなかったなと思いま

すし、すごく感謝しています。

インターン先では「大学生の意見」としてきちんと聞いてくれる大人がいることがわかって、自分なりに考えて動こうと思えました。大人はちゃんと見てくれているんだと、信頼することができると思った。そういう経験は同世代だけではなかなか学べないと思うところですし、同じ目標に向かって活動をする経験もすごく貴重でした。

国井：ホントそう思います。私もそういう方々と話したりしてインターンに参加する中ですごいアクティブになれたと思えました。やる前はなんでも人任せでしたが、ちょっとしたことも思いを持って動くことが大事だと思うようになりましたね。将来は福祉の道に進むか、一般企業に進むかまだ考え中ですが、何かが見つかったというよりも生き方の選択肢が増えて視野が広がったと思います。

佐藤：人の中で成長できるというのは大きな魅力ですね。

司会：インターンの前後で地域やインターン団体のイメージは変わりましたか？

国井：今まで NPO と関わったことがなくて、実際に地域でどうやって活動しているのか知りませんでした。実際にインターンしてみて、NPO もひとつの団体でやっているわけではなく、地域や他の団体と繋がっているから活動できているんだと気づくことが出来ました。

荒木：インターンを通じて横浜が「頼れる大人がいる地域」になった気がします。遊びに行ける場所が地域にあるっていうか。例えば、これから就活で、保育に行くのか一般企業に行くのか、悩んでいるんですが、そういう時に

相談できる人が親や大学の先生以外にできたんですね。

これからも色々悩むと思うんですが、相談できる場所が地域にあることが大きく変わったことですね。

佐藤：それは僕も同じですね。インターンを通じて地域で働くっていいなって思えたことですね。当時は就活をどうしようかと思っていた中で、地域の企業もいいなって思えたことが大きな変化だと思います。どうしても学生は華やかな場所に行きたいとぼんやり思ってしまうのですが、やはり行って見ないとわからないことがたくさんある。NPO は小さな組織だから人が大事だと思えたり、人の魅力があったから、こういう生き方もいいなって思えました。また僕のようにインターンから2年経つとわかることもあって、人とのつながりは偉大です！笑

司会：最後に今後参加する学生にメッセージを一言お願いします。

佐藤：社会に出ることが楽しみになる、そんな経験がしたかったら是非。

国井：そうですね、私もインターンを経験することはきっとプラスになれると思うので、学生の皆さんは是非一歩踏み出してもらえたらと思います。

荒木：NPO は人やつながりを大事にできる場だから、何かやりたい！と思ったら NPO に行ったら良いと思います。モヤとした気持ちをきっと受け止めてもらえるし、自分のやりたいことが探せるはずですよ。

司会：皆さんの熱い想いがこれからの横浜を盛り上げていく原動力になることを期待しています。今日はありがとうございました！

(座談会 2018 年 1 月 10 日実施)

● NPO インターンシップの魅力は？

「大学生を尊重しつつ成長させてくれるところ」



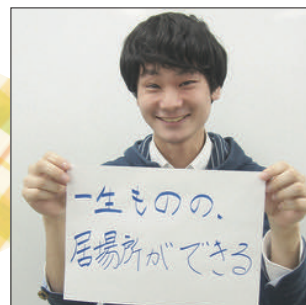
荒木 優里奈さん
東洋英和女学院大学 3 年
NPO 法人アークシップ (2017 年)

「つながり」



国井 美歩さん
明治学院大学社会学部 2 年
障害者自立支援センター
IL・NEXT (2017 年)

「一生ものの居場所ができる」



佐藤秀彰さん
明治学院大学法学部 4 年
横浜中華街パーキング協同組合 (2015 年)

NPO法人アクションポート横浜の紹介



アクションポート横浜では、企業や大学、NPOといった多セクター、若い世代から幅広い、多世代を巻き込んだ活動を展開しています。横浜に笑顔を届ける「横浜サンプロジェクト」、大学生がNPOと出会い地域参加のきっかけを作る「NPOインターンシップ」、横浜型プロボノプロジェクト「横浜アクションプランナー」など多様な事業を行っています。

団体情報

団体名：NPO法人アクションポート横浜（横浜市指定NPO法人）

住所：〒231-0023 横浜市中区山下町94番地 横浜中華街パーキング協同組合内

TEL/FAX：045-662-4395

メール：info@actionport-yokohama.org

HP：http://actionport-yokohama.org/



発行・編集元：NPO法人アクションポート横浜
 URL：http://actionport-yokohama.org/
 デザイン：NPO法人びーのびーの 企画室
 発行年月日：2018年3月

アクションポート

検索